

まとい



編集 桑名市消防本部予防課
発行 桑名防火協会
桑名危険物安全協会
桑名市大字江場7番地
☎(FAX) 0594-24-0135

URL <http://www.kuwabou.info>

春の火災予防運動

3月1日(水)～3月7日(火)



みんなで守ろう文化財
六華苑防火訓練

桑名市には、歴史的に貴重な建築物、芸術的に優れた美術工芸品など数多くの文化財があります。これら市民共通の貴重な財産である文化財を火災はもとより、地震等による災害から守り、後世に伝えていく責任があります。

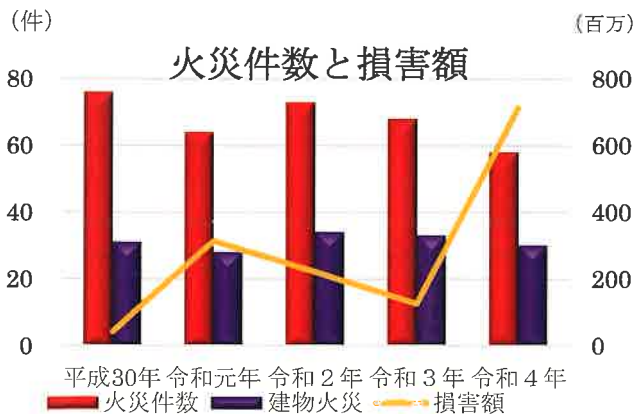
そのためには、地域住民や消防機関をはじめとした関係機関が協力し、文化財愛護思想の普及高揚を図る必要があります。今年度は1月24日(火)六華苑にて総合的な防火訓練を実施しました。

火災概況

令和4年の火災概要

近年、火災は全国的に減少傾向で、昨年中の桑名市消防本部管内(桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町)では、59件(爆発1件含)の火災が発生し令和3年と比べ、9件の減少となりました。

火災種別で見ると、建物火災が31件(爆発1件含)で、令和3年中と比べ2件減少し、他に車両火災5件、林野火災2件、その他火災(主に枯草などが燃えた火災)21件と、令和3年より全てが減少しています。



一方で損害額については、火災件数が、令和3年より減少しているのに対し、大幅に増加しており、過去5年間の平均と比べても増加しています。その要因としては、大規模全焼火災が考えられます。

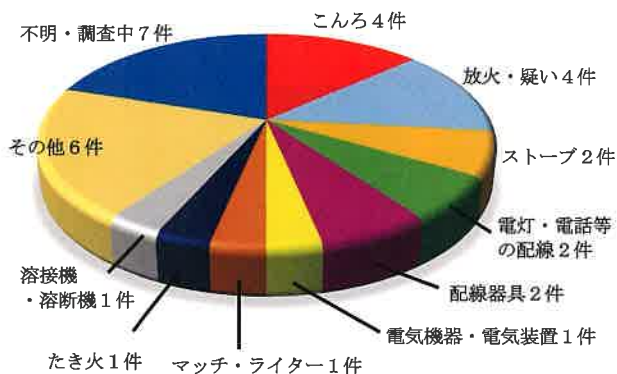
死者・負傷者については、令和4年中の死者は2名、負傷者は6名でした。死者は65歳以上の高齢者でした。

令和4年建物火災出火原因

建物火災は31件発生し全体の約53%を占めています。

主な建物火災の出火原因では「こんろ」、「放火・疑い」が各4件、続いて「ストーブ」、「電灯・電話等の配線」、「配線器具」が各2件の順となっています。

建物火災の主な出火原因



電気暖房器具の火災にご注意!!

こたつの中で衣類を乾かしたり、電気ストーブの電源を付けたまま放置することによる火災が後を絶ちません。NITE(製品評価技術基盤機構)によると、2017年度から2021年度の5年間に起きた「こたつと電気ストーブ」による事故は347件発生しており、そのうち発火による事故は、284件に上り、死亡事故は26件起こっています。

事故の原因は、器具のヒーター部分に衣類や布団などの燃えやすいものが接触したり、加熱されたりしたことによる出火が多いようです。

電気暖房器具は、火を使わないため安全に見えますが、可燃物がヒーター部に接触したことによる「ゼロ距離火災」や、電源を切らずにその場を離れたり、電源コードの異常を放置したりしたことによる「ほったらかし火災」が発生しています。



大阪府では、60代の男性がこたつの中にこたつ布団を押し込んだ結果、布団がヒーター部分に接触して焦げる事故が発生。東京都では、40代女性が電気ストーブの電源を付けたまま外出し、火災が起きました。ストーブの前には衣類が積み上げられており、ストーブと接触したか放射熱により出火したとみられています。



まだまだ暖房器具を使用する気候です。使用上の注意をよく確認し、電気暖房器具とその周囲を点検することで、事故を未然に防ぎましょう。

こたつ・電気ストーブの気を付けるポイント

- 可燃物と接触しないように距離をとる。衣類などを乾かさない。
- 就寝時や外出時に電源プラグをコンセントから抜いておく。
- 電源コードの破損がないか点検する。電源コードは踏まない、引っ張らない、折り曲げない。
- 定期的に清掃を行い、ほこりを取り除く。
- リコール対象になっていないか、確認する。

消防通信

◎文化財防火デー

★六華苑で防火訓練を実施

昭和24年1月26日に、法隆寺金堂から出火した火災によって、世界的な至宝と言われた金堂の壁十二面に描かれた仏画の大半が焼損しました。

このような被害から文化財を守るとともに、文化財愛護に関する意識の高揚を図るため、昭和30年から、消防庁と文化庁の共催により、法隆寺金堂が焼損した日である1月26日を「文化財防火デー」と定めて、文化財防火運動を全国で展開しています。

桑名市消防本部では、このような被害から文化財を守るために、毎年、関係部局と連携し防火訓練を実施しています。今年も、国指定重要文化財及び三重県の有形文化財、国の名勝に指定されている六華苑（桑名市大字桑名）において、令和5



年1月24日（火）午前10時から消防本部、地元消防団、六華苑関係者、市関係部局、保育園児など、約80名

が参加して実施しました。

「六華苑和館」の間付近から出火を想定し、六華苑関係者による初期消火、119番通報、在館者の避難誘導、文化財の持ち出し、消防署員、消防団員による放水などの総合的な防火訓練を行いました。

また、訓練の最後には、保育園児も参加し、桑名市女性消防団員の指導による消火器の取扱い訓練を行いました。

この訓練を通じて共有の財産である文化財を火災から守り、後世に伝えていく責任を参加者全員で再確認しました。（訓練風景は表紙に掲載）



実効性のある消防訓練 していますか？

防火管理者を選任しなければならぬ事業所等では、消防訓練は管理権原者の義務、防火管理者の責務です。

災害発生という異常な状態の中で、通報、初期消火、避難誘導等、自衛消防活動を円滑に行う（命を守る）ためには、普段から災害時には誰が、何を、どのように行うかという役割分担を明確にしておく必要があります。

昨年、新潟県村上市で発生した工場火災では、従業員6名の方が亡くなり、内4名のパート清掃員は、通常使用していた出入口の防火戸（シャッター）が閉鎖して出られず、その場で倒れていました。すぐ傍には非常口があり、そこから逃げられた方もいました。本来、命を守るための防火戸が…

三幸製菓の工場火災で
パート従業員4人が
亡くなった現場



東京新聞TOKYOWebより

事故調査委員会の聞き取りによると、この工場では、従業員に対する定期的な訓練が行われておらず、殆どの従業員が非常口の存在を知らなかったと答えており、また避難訓練には米菓生産に支障がない範囲の従業員しか参加しておらず、夜間勤務者を対象にした訓

練も無かったとのこと。

また過去の火災では、「消防用設備の使用方法や有効な通報・避難の方法を従業員が理解していない」、「防火戸付近に物件が置いてあったため防火戸が作動しなかった等」の理由により、被害を拡大させてしまったようです。

以前行われた厚生労働省の調査では、回答した約2割の企業がパート等の非正規社員に「火災時の避難マニュアルを知らせていない」と答えています。

消防法では定期的な通報・消火・避難訓練の実施を規定していますが、対象者までは規定していません。ただ、防火管理者が作成する消防計画の対象は勤務し出入りするすべての者に適用するとなっております。

正社員、非正規社員等の区別することなく、働き手全員の命を守る対策を講じ、安全格差のない消防計画を立て、過去の災害を教訓とし、二度と同じような災害を起こさせないように、定期的に消防訓練を実施しましょう。



防火協会会員事業所紹介

NTN(株)桑名製作所

桑名製作所長 谷尾 雅之



NTN株式会社
の歴史は、1981
年(大正7年)に桑
名町内堀に西園鉄
工所を設立し、ベ
アリングの研究開



発を開始した事から始まりまし
た。2018年には100周年を迎え、「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する」という企業理念のもと、グローバルで事業を展開しています。主力商品は軸受(ベアリング)で、自動車や航空機、鉄道車両、各産業機械など様々な機械に使用いただいています。桑名製作所は1939年より現在の地で稼働を開始しました。途中、太平洋戦争の空爆で壊滅的な被害を受けましたが、ゼロからの復興を行い現在に至っています。当製作所で生産しているのは、直径20mmから2.5mの産業機械向けの軸受で、創業当時から様々な製造技術を開発し、

め、熱処理という高温に熱した材料を油槽に入れて急冷する工程がありますが、2012年7月にこの工程で火災が発生しました。熱処理工場では、この事故を教訓に毎年7月に独自の消火・避難訓練を実施しています。東海・東南海・南海トラフ大地震等を想定した防災訓練と各種防災活動は、企業にとつて非常に重要な取り組みです。今年度の防災訓練は、コロナウイルス感染症の状況を考慮したうえで、11月22日に桑名市消防本部様のご指導を頂き、無事実施する事ができました。実際に地震やそれに伴う火災が起きた時の状況を想定すると、課題が少なからず残されており、防災組織に沿った形で個別の教育やしきみの整備など、更なる備えが必要です。これからも桑名市の防火協会の一員として社員一同、防火・防災意識の向上と体制の強化に努めて参ります。

TOYOTIRE(株)桑名工場

桑名工場長 桜井 幸信



弊社TOYOTIRE(株)桑名工場は、1975年に操業を始め47年を迎えました。日々生産活動ができてい



ました。会場に集まったのは工場の現場責任者約20名、またコロナ感染予防も鑑み、会場に集まる人数を制限してリモートでの聴講も行っており、皆の



るのは、弊社の従業員とそのご家族、地域住民皆様のご理解ご協力の賜物と考え、深く感謝しております。桑名工場では新車装着用乗用車タイヤを中心に、全てのカテゴリーのタイヤを製造しています。また、ドライバーの方が快適に運転できるように、車の走行時振動を吸収する防振ゴム部品の生産も担っています。さて、弊社では製品生産時に危険物を取り扱っていることから、働く従業員の安全確保、また地域住民皆様へのご迷惑にならないよう、さまざまな安全防災に関する活動を行っており、自衛での放水訓練や避難訓練は勿論のこと、桑名市消防本部並びに東員消防署の方々にご尽力いただきながら、訓練や講習等を通じて従業員の防火意識向上に努めております。11月14日には弊社工場へ桑名市消防本部予防課の方々にご来場いただき、企業防火講習会を開催、危険物を取り扱う上での注意点等、ご講話いただきました。会場に集まったのは工場の現場責任者約20名、またコロナ感染予防も鑑み、会場に集まる人数を制限してリモートでの聴講も行っており、皆の



防火意識向上ができたと考えております。今後も火災や事故の未然防止に注力して安全安心な物造りを心掛け、地域住民の皆様と良好な関係を築き、社会に必要とされる企業として活動してまいります。

春季全国火災予防運動が3月1日からはじまります

令和5年3月1日から3月7日まで「令和5年春季全国火災予防運動」が開かれます。この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図ることで、火災の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的に毎年実施されています。桑名防火協会では、広報事業を通じて、幅広く火災予防運動を実施いたします。みなさんも全国火災予防運動期間中に、今一度、ご家庭の防火対策を確認したり、住宅用火災警報器の作動確認などを行っていきましょう。

